

24 芸術を学ぶ

場面：大学の講義

状況：芸術学の教授が講義を行う

登場人物：A（女性、芸術学講師）

A: 今日の講義は、オペラ歌手の歌声についてです。オペラ歌手の声は、マイクを使わなくても、すごく大きく響きますよね。皆さん、どうしてあんなに響くのか、考えたことってありますか？

その秘密は、声帯の震え、つまりのどの震えを体全体に響かせていることです。声を体に響かせることで、音が大きく、そして豊かになります。ただ大きな声を出しているのではなく、響きをうまく使って、やわらかい音や、力強い音など、いろいろな音を生み出しているんですね。

では、人はなぜその声を「美しい」と感じるのでしょうか。

ここで紹介したいのが、イタリアで生まれた「ベルカント」という歌い方です。ベルカントとは、イタリア語で「美しい歌」という意味です。あっ、そのままの意味ですね（笑）。はい、この歌い方では、のどに無理な力を入れず、深い呼吸をし、声をなめらかにつなぎます。そのため、流れるような歌声になり、聴く人は心地よさを感じます。

でも、ベルカントの魅力は、それだけではありません。最も大切なのは、声に感情を乗せられる、ということです。ベルカントは、体の力を抜いているので、声を細かくコントロールできます。なので、さまざまな感情を声で表すことができます。オペラでは、愛や悲しみ、怒りや喜びなど、いろいろな気持ちが、歌の中に込められています。その気持ちが聴く人に伝わって、心が動いたときに、感動が生まれるんです。

つまり、歌声の美しさって、音が綺麗、というだけじゃないんですね。歌っている人の気持ちが伝わったとき、より美しく感じるんです。

だからこそ、オペラの歌声は、多くの人を魅了し、今も愛され続けているというわけです。